

FACT SHEET

ボルデテラ・ブロンキセプチカとは？

- ボルデテラ・ブロンキセプチカ (*Bordetella bronchiseptica*) は、哺乳動物の気道に定着するグラム陰性菌です。
- シェルターや多頭飼育のようなとくに飼育密度の高い環境下が、家庭猫のおもな感染源となっています。
- ボルデテラ・ブロンキセプチカは、まれにヒトへの感染が認められています（人獣共通感染症）。
- ボルデテラ・ブロンキセプチカは、一般的な消毒薬に感受性を示します。

感染

- 感染猫の口腔内と鼻腔の粘液物中にボルデテラ・ブロンキセプチカが排泄されます。
- 慢性感染状態のボルデテラ・ブロンキセプチカは、宿主（猫）の気道の繊毛上皮に定着しています。
- 感染後、血清中和抗体は急速に上昇しますが、この抗体がどのくらい持続するかは明らかにされていません。
- ボルデテラ・ブロンキセプチカ呼吸器疾患（ケンネルコフ）の犬は猫の感染リスクとなります。

臨床症状

- 広範な呼吸器症状がボルデテラ・ブロンキセプチカ感染と関連づけられます。たとえば、発熱、発咳、鼻汁、眼脂、リンパ節症を伴う軽度の症状から、呼吸困難を伴う肺炎、死に至るチアノーゼのような重度の肺炎までに認められます。
- 肺炎は10週齢未満の子猫においてよくみられますが、高齢猫でも同様に感染可能であるため、咳をしている猫ではボルデテラ・ブロンキセプチカ感染を考慮する必要があります。

診断

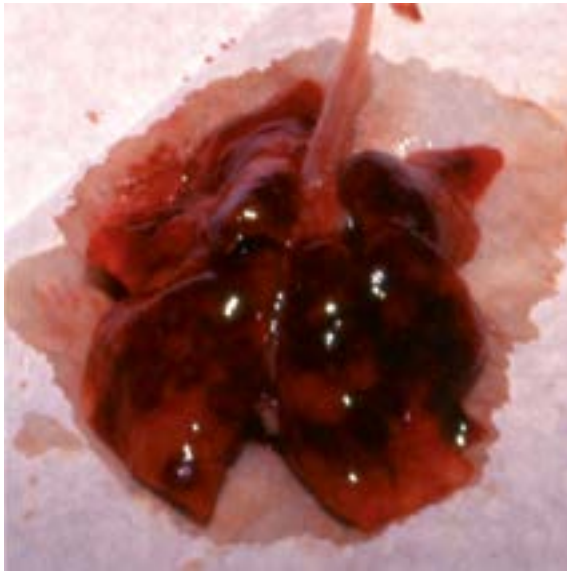
- 診断には細菌培養とPCRが用いられますが、感度は高くありません。
- 分離用のサンプルは、咽頭（スワブ）または経気管洗浄/気管支肺胞洗浄により採取することが可能です。
- 下部呼吸器症状を示す猫は、気管支肺胞洗浄サンプルからボルデテラ・ブロンキセプチカを同定することで診断できます。
- 経気管洗浄サンプルの細胞学的解析は、多形核白血球、マクロファージ、ボルデテラ・ブロンキセプチカの証明となります。

疾患管理

- 軽度の症状であっても、抗菌薬治療を行います。
- 感受性データがなければ、テトラサイクリンの投与が推奨されています。ドキシサイクリンは選択される抗菌薬です。
- 重度の感染猫には、支持療法と集中的な看護ケアが必要とされます。
- 脱水状態を緩和するため、また電解質および酸塩基平衡を回復させるために、静脈内輸液の投与が必要となることがあります。

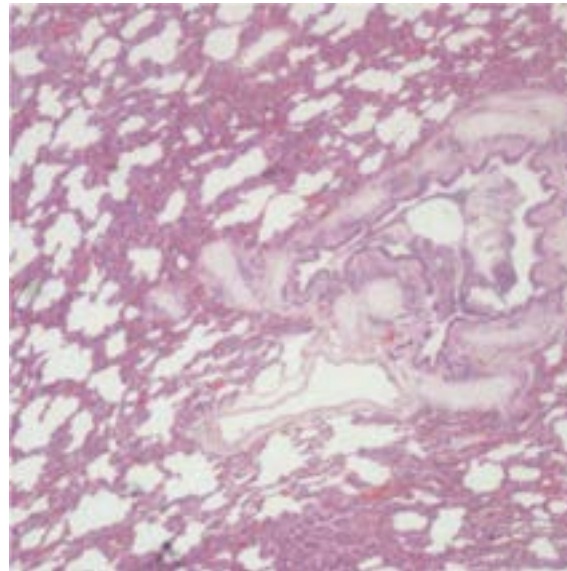
ワクチン接種の推奨

- ヨーロッパのいくつかの国では、弱毒生経鼻ワクチンが承認されています。弱毒生ワクチンは毎年のブースター接種、および単回ワクチン接種として使用を許可されています。
- ボルデテラ・ブロンキセプチカはノンコアワクチンであり、猫にはボルデテラ・ブロンキセプチカに対する定期ワクチン接種を受けさせるべきではありません。
- ワクチン接種はボルデテラ・ブロンキセプチカの発症歴がある、飼育密度の高い環境下に居住している猫に限定して行うべきです。
- 生ワクチンを接種された猫は菌を排泄します；免疫不全の飼い主がいる場所は避けなければなりません。
- 犬と同様、これらのワクチンはときどき猫に軽度の臨床症状を起こすことがあります。



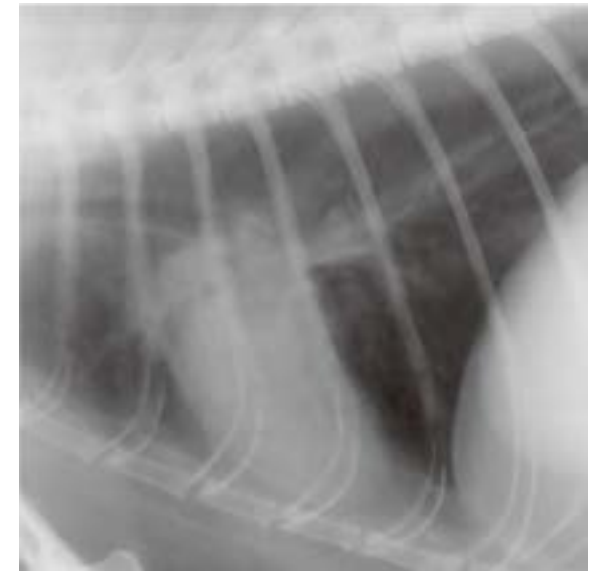
Maria-Grazia Pennisi (University of Messina) の好意による

- 肺炎で死亡した子猫の肺。
肺から *B. bronchiseptica* が分離された



The Feline Centre (University of Bristol) の好意による

- *B. bronchiseptica* 感染による肺炎で死亡した子猫の肺の切片



Feline Advisory Bureau の好意による

- 猫の *B. bronchiseptica* 感染はときどき気管支肺炎を引き起こす